

特別寄稿

『北海道整形外科外傷研究会 ～その生立ちと33年の歩み～』

札幌中央病院 荒川 浩

昨春、28年間携わってきた本会の代表を退任させて頂くに当たり、第118回研究会の畑中渉会長のお計らいで、本会の33年にわたる歴史をお話する機会を頂いた。後任の佐久間隆先生から、その要旨を投稿するように依頼があり、“最後のお勤め”と考えお引き受けした。

本研究会は、大学ではあまり扱われない新鮮外傷を対象とした、日ごろ経験している症例を持ち寄り遠慮なく話し合う症例検討会のようなものが欲しいとの声に、故三国義博、故伊藤孝、原田裕朗、渋谷昭雄、青柳孝一の諸先生が発起人となり、札幌近郊の北大整形外科同門の先生方に呼びかけたことに始まる。

昭和50年6月13日、それに応じて24名が集まり、第1回が三国先生を代表に、現・大日本住友製薬のご支援を頂いて研究会を立ち上げ、将来の発展を信じてか“大胆にも”「北海道整形外科外傷研究会」と名付けてスタートした。当初は幹事持ちまわりで、時にはまだ乾いていないX線写真を貼ったシャーステンを囲んで本音の議論を交わしながら隔月開催していたが、第6回からは症例検討のほかに主題を設けて集中的に討議するようになった。第16回（昭和52年）には「教育研修講演」を企画、第1回目には北里大学の山本真先生を講師に招いて「骨接合術の工夫」を講演して頂いた。私は昭和55年に札幌に戻ったのを機に入会、昭和57年から年3回の開催となり、第46回（昭和58年）には本会の名称「北海道整形外科」にふさわしい組織に変更・全道にオープンとし、伊藤孝先生を二代目代表に据えて、会員も75名に増加しその後も順調に発展してきた。

第50回記念大会（昭和59年）「日常よくみられる骨折—転子部・下～顆上～下腿骨折—あなたならどうする」を企画して日本骨折研究会（現・日本骨折治療学会）の重鎮の先生方の参加を得て成功裏に終え、いささか全国的にも本会が認知されるようになった。第53回（昭和60年）の奈良県立医大の玉井進先生による教育研修講演「四肢外傷における **micro-surgery** の役割」には109名の参加（会員数112名）があり、その後は毎回主題を決め、それに関連した教育研修講演を同時開催して会員数も着実に増えて150名を越えた。

次第に研究会としての体裁も整い、“生々しい経験と厳しい討論”を是非記録に残したいとの思いから、昭和60年から年1回、その年の発表を幹事に「要旨と質疑応答」を書いて頂き会誌を発行した。昭和63年には創刊号より国会図書館に登録し、平成元年の第5巻から掲載論文は全て投稿とし、発表論文・質疑応答と教育研修講演を掲載し、約150頁前後の機関紙を毎年発行して、今春25巻を数えるまでになった。

第80回記念大会（平成5年）は日本骨折研究会から諸先生を講師に招いて開催、本研究

会の“末広りの発展を祈念し、平成7年より会の運営も評議員による合議制に移行したが、6月に代表の伊藤孝先生が急逝され三代目を荒川が引き継いだ。

その後も会員は徐々に増え一時は350名を突破し、記念すべき第100回記念大会を平成12年2月26日札幌でも未曾有の大雪について（出席者157名）開催、多数のゲストの中から骨折治療の問題や発展に向けた記念講演を4名、特別発言では各分野の実力者5名に2000年初頭に当たっての治療法の方向性や未来に向けた夢などを語って頂いた（概要は第16巻別冊、第100回記念号に掲載）。夜は盛大に祝賀パーティーを開宴して楽しい思い出となった。その後は2月、11月の年2回開催とし、評議員の若返りを図りながら、評議員の中からその都度会長を決めて、主題を中心に症例検討、一般演題、講師を招いた教育研修講演をセットで土曜日の午後3時から8時頃まで缶詰状態の研究会を開催し、その終了後に参加希望を募り「講師を囲む会－酒の力を借りて本音を聞く－」を開いて若手に好評を得ている。

平成15年発行の会誌第19巻からデジタル化もして札幌医大図書館にPDF登録して公開し、年会費8,000円と会誌の広告掲載料により運営、平成19年にはホームページも開設した。更なる飛躍を期し19年2月の第115回研究会の翌日、初めての試みとして若手整形外科医を対象とした「第1回外傷研修セミナー」を開催した。評議員の土田芳彦先生の肝いりで会員の手作りで、主題は上肢の外傷とし市立札幌病院の講堂を借りて中堅の会員・評議員、札幌大から支援を頂いた2名の計9名の講師により午前9時から午後4時までの中身の濃い研修の企画となった。初回にも拘らず50名以上の参加があり、それなりの評価が得られたとの感触を得て、20年2月にも「下肢の外傷」を主題に「第2回外傷研修セミナー」を開催した（次頁参照）。整形外科を志す研修医の外傷に関する初期研修の場が十分でないとの指摘があるなか、今後定期的な開催も視野に入れ、若手整形外科医の研修の場として定着し、本研究会と共に発展することを願っている。

平成20年春、会誌24巻を発行したところで、世話役としての28年間のお役目を終わらせて頂いたが、この間本研究会の教育研修講演などで道外から80名を超える諸先輩にお世話になりながら「継続は力なり」をモットーに運営してきた。今後益々関連学会・研究会とも交流を重ね、発表論文や運営などに関しても情報交換の迅速化を図り、時代のニーズに十分対応した研究会に進化し、若手整形外科医の研修の場としても発展することを心から願って筆を置く次第である。

(参照)

北海道整形外科外傷研究会
第1回教育研修セミナープログラム

平成19年2月25日 市立札幌病院講堂

	講演名	演者 (敬称略)	司会 (敬称略)
9:00-9:30	上腕骨近位部骨折の治療	札幌徳洲会病院 森 利光	
9:30-10:00	手関節・指関節周辺の靱帯損傷	札幌医大 青木 光広	
10:00-10:30	橈骨遠位端骨折におけるlocking plate 固定	帯広協立病院 津村 敬	
Lunch			
10:40-11:40	外傷患者の初期治療	札幌医大救急部 奈良 理	
11:40-12:10	肘関節周囲骨折の治療	帯広協会病院 高畑 智嗣	
12:50-13:20	無床クリニックにおける手の外科手術	おおあさクリニック 内藤 貴文	
13:20-14:20	頭部外傷の管理	札幌医大救急部 宮田 圭	
14:30-15:00	手指末節骨骨折の治療	手稲前田整形 畑中 涉	
15:00-16:00	外傷患者のCT診断	札幌医大放射線科 山 直也	
16:00-16:05	今後のセミナーについて	土田 芳彦	

第2回教育研修セミナープログラム

平成20年2月24日 市立札幌病院講堂

8:55-9:00	開会に際しての挨拶	北海道整形外科外傷研究会代表 荒川 浩	森 利光
9:00-9:30	大腿骨転子部骨折	岡山労災病院 人工関節センター長 難波 良文	
9:30-9:45	症例提示	手稲前田整形外科 畑中 涉	
9:45-10:15	大腿骨頸部骨折	瀬尾記念病院 副院長 野々宮廣章 (降雪の為中止)	佐久間隆
10:25-11:25	私の見逃し症例1~3	札幌徳洲会病院 森 利光 帯広協会病院 高畑 智嗣 豊岡中央病院 浜口 英寿	
11:25-12:25	肩関節と股関節の臨床解剖	札幌医科大学 青木 光広	
Lunch			
13:00-13:30	大腿骨骨幹部骨折	札幌医科大学 高度救命救急センター 入船 秀仁 (降雪の為中止)	高畑智嗣
13:30-14:00	脛骨骨幹部骨折	瀬尾記念病院 副院長 野々宮廣章 (降雪の為中止)	
14:10-15:10	CRPSの早期診断と治療	札幌医科大学 リハビリテーション科 村上 孝徳	森 利光
アンケート回収			